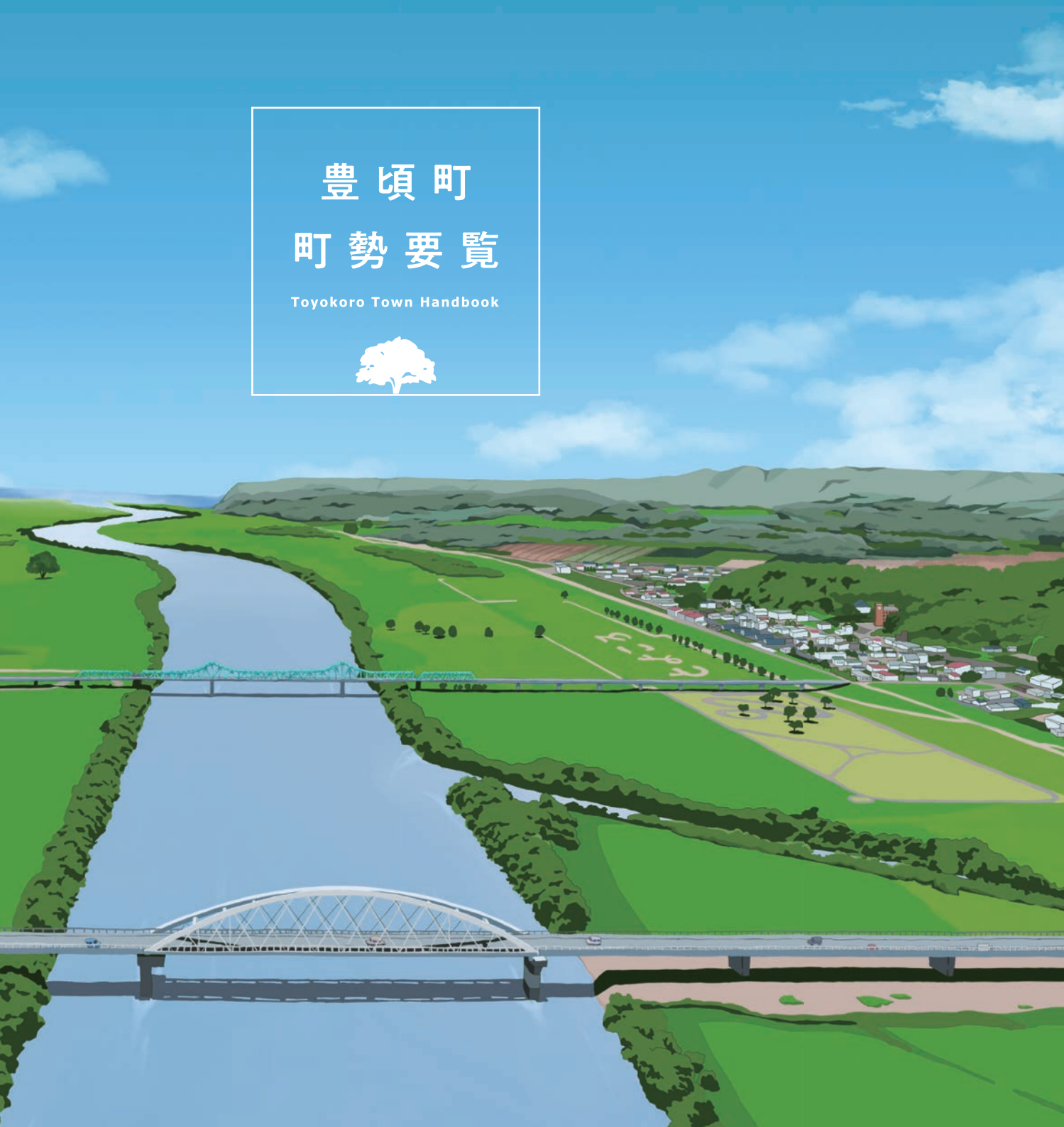


豊頃町 町勢要覧

Toyokoro Town Handbook



とよころじかん

豊頃町町勢要覧
2022



豊頃町町勢要覧
WEB版

報徳のおしえを誇りに お互いの立場を思いやり 未来に夢をもてるまち

CONTENTS

- 01 町長あいさつ
- 02 とよころの歴史／報徳のおしえ
TOPIC：東京学芸大学
- 03 豊頃の産業
- 04 豊頃の暮らし
- 05 特産品／ふるさと納税
- 06 豊頃団志
- 07 豊頃の見どころ
- 08 基礎データ／アクセス
- 09 年表



豊頃町長 按田 武

Takeshi
Anda

豊頃町は江戸時代の後期から明治期にかけて十勝開拓の玄関口として栄え、2020年には開町140年を迎えました。

わが町は、開拓の意欲に燃えた黎明期の先人たちの弛まぬ努力によって繁栄し、今日まで子々孫々に伝えられ、発展してまいりました。そうした気概とともに丹精を込めて造り上げた肥沃な大地は、わが町の大きな財産であります。同時に私たちは、開拓の偉業を成し遂げた先人たちに感謝を捧げるとともに、次世代に継承していかなくてはなりません。

豊頃町は人口3000人ほどの小さな町です。全国各地で問題となっているように、わが町でも少子高齢化が進み、その課題解決のためにさまざまな挑戦が求められています。未来を支える宝である子どもたちから、長きにわたる町を支えられている年配の方まで、皆が豊かに暮らせる環境づくりのために、福祉・子育て支援などの施策を切れ目なく継続・発展させていく所存です。

また、先人から引き継がれた「報徳のおしえ」は、現在の豊頃の礎であり、今後もこの「報徳のおしえ」

を繋ぎ、お互いの立場を思いやり、共に支え合い未来に夢をもてるまちであるよう努めてまいります。私は豊頃の地に「そびえ立つ」はるにれの木のごとく、しっかりと地に足をつけ、わが町の将来に確かな展望を見据えています。そして豊頃町に生まれ育ったことに誇りと自信を持てるまちづくりを力強く推進していきます。

インタビューの全文はWebサイトで公開しています



十勝発祥の地

とよころの歴史
大津から始まる



報徳のおしえ

とよころの礎
報徳のおしえを
受け継ぐ



昭和40年(1965年)町制施行記念パレードの様子。



昭和45年頃の茂岩市街。

とよころの歴史 大津から始まる「豊頃」

豊頃町大津。

十勝の開拓の歴史は、この地から始まりました。江戸時代末期、文久3年(1863年)に青森から函館を経て大津へとやってきた堺千代吉が、和人として大津に定住した初めての人物とされています。その後、堺千代吉はアイヌの人々と共に漁業に従事し、大津の漁場をまとめるなど活躍しました。

明治13年、大津に十勝外四郡(中川郡、河東郡、河西郡、上川郡)戸長役場(現在の町役場の前身)が設置され、この頃から大津は十勝の中心として発展を遂げます。

理想の地を求めて十勝にやってきた二宮尊親翁一行がウシシユベツ原野を発見したのが明治29年。翌年には興復社(二宮)農場として開墾が始まるなど、豊頃には大津から多くの移住、開拓者が上陸しました。大津の発展と豊頃への入植者によって、現在の豊頃町の礎が築かれてきましたが、

開拓は厳しい自然との戦いの連続でした。人々は幾度も見舞われた水害、不漁・不作、地震などの災害を乗り越え、町は発展を続けてきたのです。

昭和30年4月、大津村の地理的要因などから、全国的にも珍しい三分割合併により村の中心部が豊頃村に編入し、昭和39年には戸数1904戸、人口1万人を超えるまでになり、街並みも大きく変化を遂げました。

そして昭和40年1月1日、町制が施行。ここから大津村、豊頃村の歴史を引き継いだ、新たな「豊頃町」の歴史が始まります。昭和42年には豊頃町民憲章を制定。そこには「…先人のたくましい開拓精神と、報徳のおしえをうけつぐことをほこりとし…」と謳われており、今もなお、町民のあるべき姿が示されています。

詳しい内容は
Webサイトで
公開しています



報徳のおしえ

「豊頃」の心の礎

明治30年、ウシシユベツ原野の一角(豊頃町二宮)に辿り着いて開拓を始めた興復社二行。この地で二宮尊親翁は自ら先頭に立ち、農民の独立と村づくりに取り組みました。その際に基盤としたのが「報徳」の考え方です。現在も「報徳のおしえ」として受け継がれている「報徳」は、至誠、勤労、分度、推譲の四綱領から成り、自然の徳や恵に報いることをいいます。艱難辛苦に耐えた開拓期、尊親翁は故郷を離れ入植した農民たちへ講話を行い、苦しい環境を乗り越えるための自助努力と助け合いを諭し、立ち向かうよう鼓舞しました。この気持ちの持ちようを心田開発といい、毎月20日に「芋コジ」という例会を通して行われました。こうして尊親翁の指導によって農地を切り拓いた農民たち。努力の時を経て、約160戸もの農民が自立することができました。

今も町内の小中学校では「報徳のおしえ」を学ぶ授業が

行われ、豊頃の子どもたちは、報徳のおしえを胸に刻み成長していきます。また、二宮地区では、明治35年に移住民の自主的な報徳実践組織として「牛首別報徳会」を設立。以来120年以上にわたって報徳のおしえを実践し、尊親翁一行がウシシユベツ原野を入植地として定めた明治29年7月29日を「探見記念日」とし、先人たちが多くの困難を乗り越え築いた土地に思いを馳せながら、報徳のおしえを継承してきました。

そして現在では全国各地の報徳にゆかりのある地や団体との交流も盛んで、例年開催されている「全国報徳サミット」に参加するなど、将来にわたって報徳のおしえを受け継いでいくための実践が続けられています。

詳しい内容は
Webサイトで
公開しています



毎年秋に報徳二宮神社で行われる、二宮獅子舞神楽。町の指定文化財です。



二宮尊親翁は「報徳」を実践し多くの村を救った二宮尊徳の嫡孫にあたります。



二宮報徳館に保存されている興復社農場員名札。毎月農民があつまり、尊親翁の例会講読と力農篤行者(とっこうしゃ)の表彰が行われ、開拓に挑む力を維持、高めさせるための取り組みである「芋コジ」が行われていました。



■ **農業**
 畑作から畜産まで大規模な農業生産
 広大な土地を生かした大規模農業が行われています。機械化を進めていることから、生産性の高さが特徴です。生産するのは小麦・豆類・馬鈴しょん菜を中心としており、



■ **漁業**
 二戸あたりの平均耕地面積は全国平均の約43倍、68ヘクタールを誇ります。畜産は乳牛を中心とした酪農経営が主ですが、近年は肉牛の需要が高まり飼育頭数が増えています。

03

広大な土地を生かす
農業

×

つくり育てる大津の漁場
漁業

×

独自の戦略・アイデア
商工業

■ 漁業

豊頃町を支える水産業



■ 商工業

豊頃町独自の輝く施策

近年、帯広市など近隣町村への大型店進出が進む中で、豊頃町の商工業をとりまく環境は厳しさを増しています。町では購買人口流出はどめをかけ、地域の持続的發展と商工業の活性化を図るため、プレミアム商品券の発行や各種イベントなどを行っています。



漁業は港のある大津地域が拠点です。沿岸漁業の漁獲量は、十勝沿岸4町（広尾町、大樹町、豊頃町、浦幌町）の約17%、漁業生産額については約25%を占めています。サケの人工ふ化放流事業の成果により、サケ定置網漁業の水揚量が約7割、金額は約6割を占めています。

詳しい内容は
Webサイトで
公開しています



TOPIC

多様性を生かした
知的・人的・
物的資源の相互活用

豊頃町

×

東京学芸大学

鉄矢教授により
詳しいお話を
お聞きしました



豊頃小学校で行われた特別授業。新聞紙を貼り合わせて丸め、工夫を凝らして高く伸ばします。



東京学芸大学の学生が、学生ボランティアとして来町。小・中学校等で活動し、豊頃同志主催の「カッチコチ祭り」でワークショップを行っています。

「報徳」の つながりから 始まる地域交流

2021年9月に豊頃町と東京学芸大学は連携協定を締結しました。

多様性や地域特性を生かした町の児童・生徒に対する教育の充実、同大学生のインターンシップやボランティアの場への創出などを通じて、本町における持続可能な地域づくりと町・東京学芸大学双方の教育・研究機能の向上を目的としています。

東京学芸大学とのつながりは、掛川ひかりのオブジェ展というイベントに参加していた同大鉄矢教授と互産互生のイベントで掛川市にいた豊頃町の人たちとの出会いでした。

豊頃町と掛川市に根付く「報徳のおしえ」の縁から、鉄矢教授につながり、高等学校、大学のない豊頃町で、大学生との交流が始まりました。

鉄矢教授が考える
小さな町だからできる
教育とは



東京学芸大学
鉄矢悦朗教授

鉄矢教授は、同大学の環境プログラムデザイン研究室で教員を目指す学生に日々指導を行う傍ら、教育環境支援やまちづくりに関するプロジェクトに多数参画し、地方からできる教育のデザインについて研究しています。

鉄矢教授は「私や学生、豊頃町が関わり合うことで、豊頃町の関係人口増加につながりますし、豊頃町の環境を生かした教育や遊びの場を作ることが、学びを深めることができれば」と話します。「楽しく遊ぶ」なかに「学び」が詰まっていると語る鉄矢教授から、新たな視点を心得て、大きな効果が生まれることに期待しています。

定住促進等住宅取得補助金

町内に住宅を取得する町民で、新築または中古住宅を購入される方へ支援を行っています。

- 新築住宅** 現金80万円+商工会共通商品券20万円。
町内業者施工増額:現金50万円。
町宅地分譲地増額:現金60万円+商工会共通商品券20万円

中古住宅購入 購入代金の20%以内(限度額50万円)※用地取得代金を除く

リフォーム増額補助金 中古住宅購入時に入居前までに町内業者施工によるリフォームの代金50%以内(限度額100万円)

町有バス・コミュニティバスの運行について

路線バスや都市間バスが走っていないことから、JRへの接続や買い物・通院などの利便性を確保するために次の公共交通を整備しています。

- 町有バスの運行
- コミュニティバスの運行
- 患者輸送バスの運行
- 福祉タクシー券の交付
- スクールバスの運行



福祉タクシー券の交付

65歳以上1世帯につきタクシー乗車券(基本料金分)を年間最大72枚交付。



産業振興事業補助金

- 人材育成事業(補助対象経費の2分の1、限度額30万円)
新規起業支援・異業種進出支援・新製品等開発支援・店舗改修等支援(補助対象経費の2分の1、限度額300万円)
販路開拓支援(補助対象経費の2分の1、限度額150万円)
デザイン開発支援(補助対象経費の2分の1、限度額50万円)
名品づくり事業(補助対象経費の2分の1、限度額100万円)
従業員宿舎確保支援(1戸当たり月額1万円、3年間限度)。

※補助金制度には各種要件があります。また、上記以外にも様々な施策を行っていますので、詳しくは8ページのQRコードから詳細をご覧ください。

出産祝金支給事業

新町民の誕生を祝福するとともに、次代の町づくりを担う子どもの健全な育成のため、現金と豊頃町商工会共通商品券を支給。支給金額は第1子10万円、第2子20万円、第3子以降30万円。



詳しい内容は
Webサイトで
公開しています



結婚や子育て、お仕事や教育に関わることなど、豊頃町で過ごす皆さんを支えるさまざまなサポートを紹介します。

04

豊頃の暮らし

生まれたとき
成長したとき

×

生涯を通じて

教育から
産業から

入学祝金支給事業

児童の健全な育成を増進するために入学祝金を支給しています。小学校に入学する児童1人につき3万円を支給。

小中学校検定受検料助成金

町内の小中学校に在籍する児童生徒が英語検定等の試験を受検した場合、受検料の全額を助成します。

高等学校等就学助成金事業

高等学校等に就学している生徒へ月額7千円を支給します。

特定不妊治療費助成事業

不妊治療の経済的な負担を軽減するため、治療費の一部を助成しています。1回10万円を限度に、年度内2回まで、通算5年間助成します。

健全育成支援金支給事業

次代の町づくりを担う児童の健全な育成と子育て世代の定住促進を目的に、満1歳から満6歳までの児童へ、誕生日ごとに10万円を支給します。支給金額の半額は商工会商品券です。

保育所通所支援金支給事業

保育所通所費用として月額5千円を商工会共通商品券で支給。

乳幼児等医療費給付助成事業

高校生(18歳年度末)まで医療費を無償化します。

不育症治療費助成事業

不育症に悩むご夫婦の経済的な負担を軽減するため、治療費や検査費の一部を助成しています。治療期間1回につき、20万円を限度として助成します。



ELEZO社 シャルキュトリ

肉の生産・狩猟から、熟成、流通、加工、調理まで全てを手がけるELEZO社が作る、蝦夷鹿サラミやサルシッチャ、放牧豚のテリーヌなど。写真はおすすめの商品8種をお届けする「ELEZO厳選シャルキュトリパーティーセット」。

詳しいストーリーはこちらから！



芋

きたあかり、メークイン、男爵、インカのめざめ、ホッカイコガネ、とうやなど種類豊富。農場から届くホクホクの味覚をご家庭に。



農産物

豆

あんこや赤飯に最適なえりも小豆、煮豆にぴったりの金時豆、大粒の黒豆・光黒大豆など、おいしい豊頃の豆を食卓に。

05

豊頃の特産品

大地に育まれた逸品

×

ふるさと納税

豊かな恵みをお取り寄せ

ふるさとチョイスはこちらから！



中村水産

大津産の鮭、豊頃産の大根を使用して手間ひまかけて発酵させた飯寿司。豊頃町湧洞湖産のワカサギを生炊きした佃煮など、手づくりの優しい味わいが特徴。



松村商店

大津産の秋の味覚・サケを、塩水漬や味噌漬、鮭とば、鮭ラー油などあらゆる商品に加工。どの商品もサケの旨みを活かして、おいしく仕上げています。



小笠原ファームのビールと麦茶

小笠原さんの畑で採れた二条大麦を使用したビールと麦茶。ビールは苦味と甘みのバランスが良く、華やかな香りで飽きのこない味。麦茶は香りと甘みがしっかりと感じられる仕上がり。農家が作った豊頃の新たな特産品です。

詳しいストーリーはこちらから！



豊月のお菓子

和洋両方のお菓子を作り続けて65年以上。豊頃産の小豆に生地をつけて焼き上げた「きんつば」や、レモン味のカステラをホワイトチョコレートで包んだ「銀盤」など多彩なラインナップ。

愛のこもった こだわりのチーズ

チーズ工房「幸」

自家生産の生乳100%使用。生乳の旨味、甘味も楽しめます。中でもゴーダチーズは、マイルドな風味で食べやすく、そのまま食べるのはもちろん、ピザやグラタンなどのオープン料理にも。



チーズ工房「夢みるく」

酪農家が自ら生産した搾りたての生乳を使って造るチーズ。モッツアレラ、ストリング、ゴーダの3つ。クセが少なく、日本人好みの味わいです。



詳しいストーリーはこちらから！



豊頃団志

地域の中で
新しいチャレンジ



子どもたちの
郷土愛を育む



「豊頃町を盛り上げたい！」と 立ち上がった町民有志

祭り」を企画・開催するなど、活動の輪を徐々に広げています。

メンバーの
座談会は
こちらから



子どもたちに楽しい冬の思い出を作るために始まった「カッチコチ祭り」。そりすべりやスノーモービルなど、冬を存分に楽しめるアクティビティを計画しました。

豊頃町に暮らす若者たちが町を盛り上げていこうと、2016年に活動をスタートさせた豊頃団志。結成当初の活動名は「豊頃男子」。その名のとおり男性が中心の団体でしたが、数年前に「豊頃団志」へ名前を変更。

6年目を迎えた現在は、老若男女さまざまな立場の人が活動に参加しています。

メンバー曰く、活動の目的は主に3つ。「地域の人たちとの合意形成」「新しいことへのチャレンジ」、そして「子どもたちの郷土愛を育てること」だと話します。

これまで町内の団体と連携し、移住モニターツアーの実施や首都圏等での特産品のPRなどを行ってきた彼ら。最近では、豊頃産の食材を使った「トヨコロッケ」の開発や、冬のイベント「カッチコチ

豊頃団志のメンバーは
こんな人！



畑作農家の遠藤亘さん(写真左)は、子煩悩なお父さん。酪農家の鈴木健司さん(写真右)は冷静に物事を判断し行動に移す頭脳派です。



畑作農家の川口舞さん、知絃(ともひろ)さん。夫婦で仲良く活動に参加。2人の明るい笑顔に元気をもらっている人も多いはず。

豊頃の見どころ

見守り共に歩む
はるにれの木



厳しい自然から
生まれる芸術

はるにれの木と
ジュエリーアイスの
詳細はこちら



はるにれの木



ジュエリーアイス

📷 浦島 久氏

豊頃町出身。亡き父の甲一さんと親子2代にわたって、はるにれの木に魅せられて写真を撮り続けています。

推定樹齢150年の大木。2つの木が一体化して美しい形を作っています。春夏秋冬、時間帯によっても見せる表情が異なります。

※はるにれの木は牧草地に立っています。通路以外の進入はご遠慮ください。



📷 岸本 日出雄氏

気象に翻弄されながらその都度表情を変える氷塊に惹かれ、10年以上もの歳月に渡り、飽きることなくその輝きを追い求めています。

厳冬期、十勝川河口の海岸に打ち上げられる水の宝石「ジュエリーアイス」。光の映り込み具合でさまざまな輝きを放ちます。

※海岸周辺は住宅地があり、多くの住民が居住するエリアです。特に夜間や早朝に見学する方におかれましては、特段のご配慮をお願いいたします。



豊頃町

基礎データをご紹介します



MAP
アクセス

豊頃町をご紹介

豊頃町

位置 北緯42度48分
東経143度30分
面積 536.71km²
人口 3,031人
世帯 1,465世帯
(令和3年12月末現在)



ACCESS



帯広空港から豊頃 約35km 45分
帯広から豊頃 約30km 40分
釧路から豊頃 約90km 100分
新千歳空港から豊頃 約240km 約3時間半



飛行機 東京から帯広空港 1時間35分



JR 札幌から帯広 2時間30分
帯広から豊頃 40分



バス 豊頃駅から茂岩市街 10分

豊頃町 年表

町政 140年の 歴史

豊頃町の
歴史を辿る

42年	40年	38年	36年	35年	30年	27年	25年	24年	23年	22年	17年	8年	昭和7年	大正10年	36年	30年	13年	明治8年	文久3年			
町制施行 町民憲章制定		長節原生花園、道天然記念物に指定	茂岩橋竣工	豊頃町商工会設立	令和元年	29年	27年	23年	22年	15年	12年	9年	2年	平成元年	59年	58年	54年	53年	51年	49年	46年	45年

豊頃町過疎指定町村に、旧大津村地区を山村指定
東十勝消防事務組合発足
第二回家畜まつりと秋あじまつり開催
新茂岩橋(豊頃大橋)建設工事始まる
農村地域工業導入地区に指定
豊頃開拓農協解散し、農業協同組合に合併する
豊頃町総合開発計画スタート
豊頃町開町100周年記念式典挙行
福島県相馬市と姉妹都市締結
豊頃大橋完成
富山県滑川市と姉妹都市締結
第一回とよら夏まつり
アイシン精機テストコースの進出協定締結
アイシン精機テストコース誘致
開町110周年記念式典挙行
第二回「海と大地の祭典」とよら産業まつり開催
開町120周年記念事業実施
十勝沖地震発生(震度6弱)
第4次豊頃町づくり総合計画スタート
豊頃町情報通信基盤施設(光ケーブル)運用開始
ユラス豊頃ソーラーパーク完成
豊頃町制施行50周年式典挙行
全国報徳サミット豊頃町大会開催
豊頃町まち・ひと・しごと総合戦略策定
大津情報通信基盤施設(光ケーブル)運用開始
豊頃まちなか活性化拠点施設コロコロテラスオープン
掛川市と互産互生協定を締結
豊頃中学校改築基本設計着手
開町140周年記念事業実施
防災行政無線デジタル化
こどもプラザとまらに大型遊具設置
東京学芸大学と連携協定を締結
道東沿岸で赤潮被害

詳しい内容は
Webサイトで
公開しています



発行/豊頃町役場
北海道中川郡豊頃町茂岩本町125
電話 0155-574122
FAX 0155-574137



医療・福祉

- 町立豊頃医院
- 大津診療所
- 町立歯科診療所
- デイサービスセンター 1か所
- 特別養護老人ホーム 2か所
- 福祉活動拠点施設 1か所



移住・観光

- 移住体験者住宅 2棟
- 長節湖キャンプ場
- 森林公園キャンプ場



教育

- 町立保育所 2か所
- 町立小学校 2か所
- 町立中学校 1か所

暮らしの サポート施設



サマーランド (カナダ国)

サマーランドとの交流はグローバル化に伴う多文化共生社会の実現と文化交流や親善使節団をとおして国際感覚をもった将来の人材育成を目指しています。



滑川市 (富山県)

相馬市、滑川市は、豊頃開拓の祖二宮尊親と、富山県から多くの移住者があったことから、2都市と姉妹締結をしています。報徳精神や深い関わりを大切にしながら、産業や文化交流、児童親善使節団をとおして、まちづくりや福祉の向上をととめ目指しています。



相馬市 (福島県)

姉妹都市